



開校33周年

三小だより

令和3年9月29日 発行
<10月号>
江戸川区立南葛西第三小学校
校長 宮脇 隆

4 質の高い教育を
みんなに



かみさま

副校長 竹越 康晴

2学期が始まり、はや1ヶ月が過ぎました。今年は夏があっという間に終わった気がします。季節は変わっても新型コロナウイルス対応は変わりません。むしろ、より一層気を引き締める状況です。本校では、9月末まで、密を防ぐ取組のため、毎朝の登校後、校庭での外遊びを実施しました。その賜物でしょうか、遅刻が激減しました。この朝型の生活リズムが継続できますよう、御家庭でも御指導くださいますようお願いいたします。

さて、10月の別称は「神無月」(かんなづき)と言われ、年に1度、八百万の神様が出雲に集まり、神様がいなくなってしまうと伝えられています。しかし、「子供は神様である」と表現した児童文学作家の言を借りれば、10月も学校は神有月です。しかも神様だらけ。

その児童文学作家とは、灰谷健次郎氏です。すでに他界されていますが、多くの作品を残しています。そのうちの1作品『海になみだはいらぬ』に収められている『きみはダックス先生がきらいか』の内容を1部紹介します。



「ある学校にうだつのあがらない中年先生が赴任してきます。受け持ちの子供たちは、隣の若い先生と比較してがっかりします。またその学級には、いろいろな子供たちがいます。給食を食べるのが遅い子、夜に1人、お店で買い物をしてしまう子、授業中に奇声を上げる子。しかし、ダックス先生は叱りません。そればかりか、夜に買い物してしまふ子と一緒に飲食店に入ってしまう…。そんなダックス先生に学級の子供たちは愛想をつかさそうとします。

食べ終わるのが遅い子を叱らないのは、姿勢咬合があるから。夜の買い物は、小さい弟妹のお世話のため。授業中の奇声は発達障害があるためだったということをダックス先生は全部承知しているということに子供たちは気付いていきます。一見、うだつのあがらない「ダックス先生」は実は、子供たちのことをよく見ている、そして考えてくれているということを知り、徐々に理解していく」お話です。

子供たちは、1人1人異なる素質、個性をもっていて、それを教師はじめ互いに認め合ったときに、見せる表情は、まるで神様のようなと灰谷氏は言います。



とはいえ、その神様たちは多様です。時に天邪鬼になり、手を焼かせます。その対応に難儀することもしばしばです。そんな時でも私たち大人は、誠実に向き合っ対応していくことが大切です。そうすることでいずれ伝わり、美しい表情を見せてくれます。1人で対応することが困難な時もあるでしょう。そんな時は、教職員と保護者の皆様、地域の皆様で力を合わせていきましょう。

これからの2学期には、校外学習や6年生の体育大会、音楽会などたくさんの行事があります。その1つ1つに「かみさま」たちの笑顔が見られるよう、教職員一同努めていきます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

～特別活動部から～

特別活動部 渡邊 千尋

今年度は、子供たちが楽しみにしている三小まつりが10月13日(水)に復活します！感染症対策として、用具の消毒や、密を避けるためのチケット制での入場・スタンプラリーなど、新たなルールを作り、みんなが楽しめる会を計画しています。1年生は他学年のお店を回って遊び、2～6年生はクラスごとにお店を出します。準備や当日の様子を御家庭でも話題にいただけたらと思います。

なお、今年度は保護者の皆様の御参観を中止させていただきます。御了承ください。

☆お店一覧☆

- 02-1 「2-1わくわくワールド」、2-2 「わくわくぼうけんランド」、2-3 「2コニコ3シャインランド」
- 03-1 「3年1組のお店」、3-2 「楽しい3年2組!!わくわくドキドキミニゲーム」、3-3 「たからさがし」
- 04-1 「～みんなでenjoy!～The☆なぞときめいろ」、4-2 「集中してぬけ出せ イライラ棒」
- 05-1 「おまつり1組 ～わなげ、的あてやってるよ～」、5-2 「?の部屋」、5-3 「楽しいジェットコースタークイズ」
- 06-1 「ゴーゴアドベンチャー!!」、6-2 「宮脇先生の宿題から 逃げろ!!」、6-3 「東京サトミーランド」

～5年生の様子～

5年2組 担任 向田 恵

5年生は、最近の専科(音楽・図工・家庭)の様子をお知らせします。高学年になり、演奏する楽器や使用する道具が増えてきました。

音楽科では、11月の音楽会に向けて合奏の練習をしています。「百花繚乱」という曲をリコーダーと琴で演奏します。琴を担当する児童は、毎日休み時間に自主練習をしています。

図画工作科では、版画に挑戦中です。下絵を描いてから彫り進め、何色もの色を重ねて作品を仕上げています。初めて使う彫刻刀に緊張しながらも集中して取り組む姿が見られます。

また、家庭科では、ティッシュケースを作りました。初めのうちは玉結びや玉止め、なみ縫いに苦労していましたが、刺繍やボタンの付け方を工夫して、自分だけの素敵な作品が出来上がりました。



～「大人と子供のための読みきかせの会」について～

司書教諭 平沢 朗子

9月15日(水)に、「大人と子供のための読みきかせの会」を主宰する女優の中井貴恵さんをお招きし、大型絵本を使った読み聞かせを行いました。約20年前から活動を始め、たくさんの学校や病院で公演を行っている団体です。本校でも過去に2回、公演を行っていただいています。

今回の演目は、「おじいちゃんがおばけになったわけ」でした。「光」と「影」をふんだんに使った演出や、登場人物全員を声のみで演じ分ける中井さんの朗読。そして、物語の雰囲気ぴったり合った音楽。全てがこの絵本の世界を表現していて、あっという間の時間でした。

終演後、作曲とピアノ演奏を担当されている荒井さんに「楽譜を見せていただけませんか？」とお願いをしたところ「楽譜は作っていません。絵本を見て演奏しています。」という返答が返ってきました。荒井さんが感じた絵や物語のイメージを、そのまま音にしているそうです。

御家庭で過ごす時間が長く続きます。ぜひ、今回の会をきっかけに「本好き」の子供たちが増えてほしいと思います。



～パラリンピック聖火トーチ～

オリ・パラ担当 海老原 隆太

6年生の保護者がパラリンピックの聖火リレーに参加され、9月6日(月)の朝会でその際の様子を紹介してくださいました。

その後、各学級でそれぞれが実際に手に取り、持った感じや重さ確かめました。実際に触れたことで感じたこと、目にしたこと、点字やエンブレム、トーチの形など、本物に触れたからこそその発見が数多くありました。

